

1.麻疹

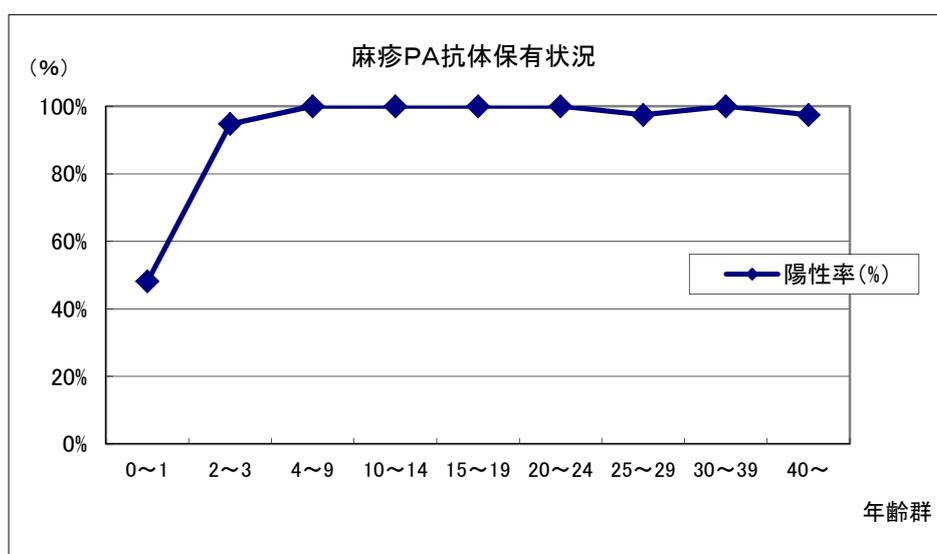
1)検体数

年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～	合計
検体数	27	19	37	34	26	37	39	71	79	369

麻疹は合計369検体についてゼラチン粒子凝集(particle agglutination:PA)にて麻疹PA抗体価を測定した。

2)麻疹PA抗体保有状況(%:PA価16倍以上陽性)

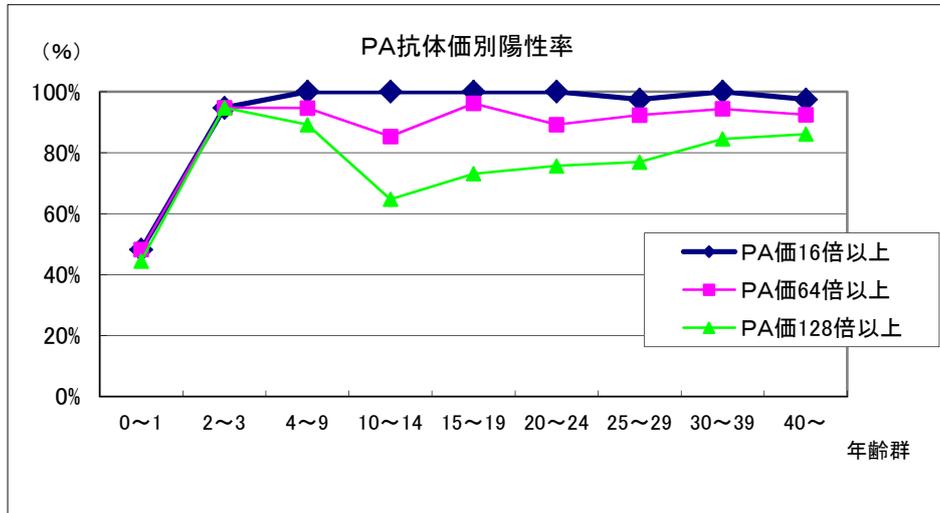
年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～
陽性率(%)	48.1%	94.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.4%	100.0%	97.5%



麻疹抗体保有状況は、4～9歳、10～14歳、15～19歳、20～24歳、30～39歳の年齢群で100%であった。2～3歳の年齢群で陽性率が95%を僅かに下回ったが、その他の年齢群では陽性率が95%を超え高い保有率を維持していた。4～9歳、10～14歳、15～19歳、25～29歳、30～39歳の年齢群では昨年度より上昇した(昨年度はそれぞれ97.3%、97.7%、96.8%、94.6%、97.3%)。

3) 麻疹PA抗体価別陽性率(%)

年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～
PA価16倍以上	48.1%	94.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.4%	100.0%	97.5%
PA価64倍以上	48.1%	94.7%	94.6%	85.3%	96.2%	89.2%	92.3%	94.4%	92.4%
PA価128倍以上	44.4%	94.7%	89.2%	64.7%	73.1%	75.7%	76.9%	84.5%	86.1%



抗体価は修飾麻疹を含めた発症予防可能レベルを考えるとPA価128倍以上が望まれる。平成29年度は0～1歳の年齢群を除く他の年齢群で抗体価の陽性率が高い傾向にあり、特に2～3歳、4～9歳の年齢群ではPA価128倍以上の陽性率が高い結果となった。

2.風疹

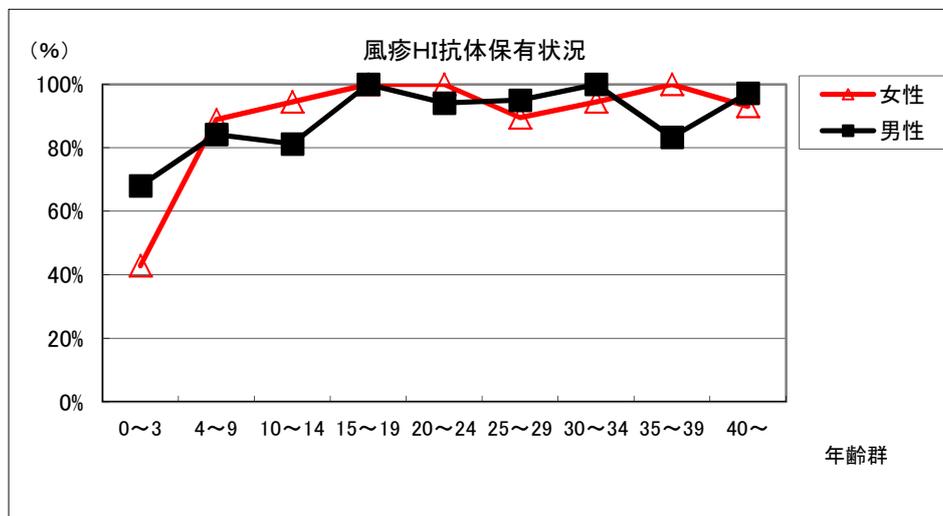
1)検体数

年齢群	0～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～	合計
女性	21	18	18	15	20	19	18	17	43	189
男性	25	19	16	11	17	20	18	18	36	180
合計	46	37	34	26	37	39	36	35	79	369

風疹は合計369検体について風疹HI抗体価を測定した。

2)風疹HI抗体保有状況(%:HI価8倍以上陽性)

年齢群	0～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～
女性	42.9%	88.9%	94.4%	100.0%	100.0%	89.5%	94.4%	100.0%	93.0%
男性	68.0%	84.2%	81.3%	100.0%	94.1%	95.0%	100.0%	83.3%	97.2%



風疹抗体保有状況は、女性は15～19歳、20～24歳、35～39歳の年齢群で、男性は15～19歳、25～29歳、30～34歳、40歳以上の年齢群で95%を超え高い保有率を維持していた。

女性は前回実施した平成28年度の結果では、0～3歳の年齢群を除く全ての年齢群で95%を上回っていたが、平成29年度は一部の年齢群で95%を下回っており、保有率の低下がみられた。男性は前回の結果では、25～29歳の年齢群で93.3%、30～34歳の年齢群で94.4%、35～39歳の年齢群で84.6%、40歳以上で88.9%であり95%を下回っていた。今年度は35～39歳の年齢群で83.3%と低い傾向がみられたが、35～39歳の年齢群を除く年齢群では95%を上回っており保有率の増加がみられた。

3.日本脳炎

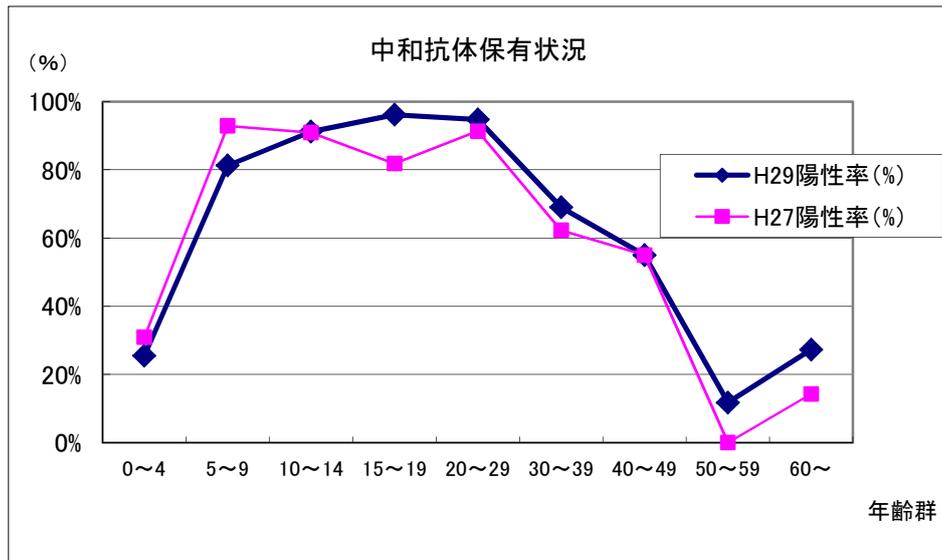
1)検体数

年齢群	0～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
検体数	51	32	34	26	76	71	40	17	22	369

日本脳炎抗体は合計369検体について中和抗体価を測定した。

2)日本脳炎中和抗体保有状況(%:中和抗体価10倍以上陽性)

年齢群	0～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～
H29陽性率(%)	25.5%	81.3%	91.2%	96.2%	94.7%	69.0%	55.0%	11.8%	27.3%



日本脳炎抗体保有状況は、15～19歳の年齢群で最も陽性率が高く96.2%で、次に20～29歳の年齢群で94.7%であった。その後なだらかに減少し、50～59歳の年齢群で11.8%となり、60歳以上の年齢群で上昇に転じている。今年度、15～19歳の年齢群(96.2%)で陽性率は前回(平成27年度:81.8%)より14ポイント程度上昇したが、5～9歳の年齢群(81.3%)で前回(92.9%)より11ポイント程度低下した。